

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 50 号

令和3年4月1日



高岡城址跡 「国 技」

日本一の相撲彫刻家 長谷川 義起 作 (明治43年金工科卒)

明治25年3月3日富山県射水郡(現・高岡市)に生れた。本名勝之。大正4年3月東京美術学校彫刻科本科塑造部を卒業。大正9年第2回帝展に「靈光」が初入選してより連続入選を重ねた。戦後の日展では、依頼出品を続け、審査員、評議員をつとめ、また日本彫塑家クラブ理事、日本陶彫会委員長、北陽美術会理事などを歴任した。

世界最大のスポーツの祭典と知られるオリンピックは、1912年から48年の大会まで芸術競技もおこなわれていた、建築と彫刻、絵画、文学、音楽の5種目でスポーツを題材とした作品を競い合った。

昭和11年ベルリンオリンピックに「両構(力士)」が入賞した。また昭和13年1月の双葉山五連勝の表彰額「龍虎」があり、戦後には「大鵬像」などがある。死去前の1月には紺綬褒章を受けた。

第27回 青井中美展

11月12日(木)～11月29日(日)

今年度は37校から452点の応募があり、75点が入賞した。
 青井大賞に長谷川奈央さん(城端中3年)、
 県知事賞 渡邊 楽さん(五位中2年)、富山
 県教育委員会教育長賞 籠 雅姫さん(志貴野
 中2年)ほか26名が受賞した。

各賞受賞者

青井大賞	長谷川奈央	(城端)
富山県知事賞	渡邊 楽	(五位)
富山県教育委員会教育長賞	籠 雅姫	(志貴野)
最優秀賞	中村 千穂	(大戸)
優秀賞	雨宮 理美	(小戸)
富山新聞社優秀賞	丹羽みずき	(小戸)
チューリップテレビ優秀賞	本江 滯奈	(芳野)
優秀賞	岡崎 将太	(芳野)
優秀賞	西村 晴気	(蟹谷)
富山新聞社優良賞	五十石透梧	(出町)
富山新聞社優良賞	浅井 琉玖	(大門)
チューリップテレビ優良賞	高橋 春弥	(福岡)
チューリップテレビ優良賞	心葉 福	(小野)
佳作	関野 杏樹	(小杉)
佳作	平野 紗英	(蟹谷)
佳作	柴田 月碧	(大門)
佳作	吉江 慶太	(大門)
佳作	永田 愛美	(大戸)
佳作	松田 伶美	(大戸)
佳作	森田 来美	(出町)
佳作	正保 凌	(南星)
佳作	川原 咲	(南星)
佳作	山原 空	(南星)
佳作	小梅 星	(高野)
佳作	山藤 高	(高野)
佳作	齊藤 庄	(高野)
特別賞	山本 奈	(大谷)
特別賞	山本 奈	(大谷)



● 富山県教育委員会教育長賞
 「踏み明く」
 高岡市立志貴野中学校
 2年 籠 雅姫



● 富山県知事賞
 「空を見に」
 高岡市立五位中学校
 2年 渡邊 楽



● 青井大賞
 「まねっこ」
 南砺市立城端中学校 3年 長谷川奈央

2月18日(木)～3月1日(月)

令和2年度 課題研究作品展

各学科から3年間の学習の研究成果や、制作した作品の中から選ばれた優秀な研究作品を一堂に展示した。

令和2年度 課題研究表彰者一覧	賞	科	課題名	氏名	
				氏	名
優	機械	7速ギアボックス (バックあり)の製作	橋本 聖矢	北島 実幸	槻尾 尚希
			永森 巧真	渡邊 健太	
	電子機械	鉄道運転シミュレータの製作	藤田 一真	荒木 雅斗	大野 颯太
			小島 聖也	瀧本 信	中川 航輝
電気	機能付きカーテン	砂田 謙治	高口 真裕		
		寺島 大智	和田 敦樹		
建築	魚津市立星の杜小学校 1/200 外観模型	砺波 歩花	酒井 茜		
		二口 叶羽	前田美悠	玖	
土木環境	Glowing Concrete	大西 恵人	後田拳太朗	小杉 航輝	
		富田 楓真	橋爪 圭吾	村本 一馬	
工芸	白いねこのキャビネット	水島奈津美			
		デザイン・ 絵画			
		全国の味噌をもっと身近に ～新しいお味噌屋さんのVI計画～	水野 遥菜		

企・画・展

串田保二展

4月5日(日)～4月26日(日)

へら押しという技法を使いレリーフを作り、そのレリーフに和紙をあてタンポに含ませた墨を打ち、凸凹を写しとった拓本作品。館内では、へら押しレリーフ拓本作品の他、彫刻作品等を含め30点余り展示した。また、レリーフ作りに欠かせない自作の篋等の仕事道具も展示。色々な形の多くのへらを見ると、作品作りの細かさ大変さが想像できる。



吉田優那親子展

4月11日(土)～4月26日(日)



生徒と母親らによるパッチワーク展に1000点の作品が展示された。6千ピースを使って制作された2メートル四方の鮮やかなタペストリーやバック、ポーチといった小物、紫外線を当てると固まる「UVレンジ」を使ったアクセサリーなど多彩な作品を紹介した。※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため4月17日に非常事態宣言がされ、そのため臨時休館することになり会期中中で展覧会を終了した。5月10日に非常事態宣言が解除されたが、新型コロナウイルスの影響で同窓生の個展を大事をとって中止した。また尚美展も中止となり、特別展を実施した。

第5回デザイン・絵画科ギャラリーD

1月16日(土)～2月14日(日)

3年生は来月から行われる課題研究作品展ポスター、および製図(製品レンダリング)を展

示。2年生はデッサン、プロダクトデザイン・ビジュアルデザイン・環境デザイン・絵画コース作品を展示。1年生はデッサン、実習・工業技術基礎作品(レタリング・精密描写・エアブラシなど)を展示。また、日頃から生徒が制作している自主制作品(イラスト・写真等)を展示。デザイン・絵画科の授業内容を紹介した展覧会を実施した。



「デザイン・絵画科の制作展に参加して」

デザイン絵画科1年 千葉 桂子

デッサンの授業後に、初めて作品展を見学しました。私達一年生の作品は、実習時に制作した作品を展示しました。使ったことのない道具や技法で制作した為、最初の実習時は緊張していました。初めて使う道具に苦戦しましたが、楽しくもあつたと感じています。作品にはそれぞれ個性や特徴があり、同じテーマでも、これも違う作品になるのかと驚きました。他にも、あまり見る機会のない先輩達の作品が見られましたが、本当に一歳か二歳しか変わらない人達ののだろうかと思うほど、凄い作品ばかりでした。同級生の作品の中にも、先輩の作品に匹敵するくらいのももありました。私は、この作品展を見て、驚き、感動しました。同時に、この人達のようにになりたい、と思いました。

工芸科作品展2021

3月13日(土)～4月4日(日)



工芸科は木材工芸コース、金属工芸コース、漆工芸コースの3コースに分かれて伝統工芸について学んでいます。今回の展覧会では、工業技術基礎(スプーン・レタリング・錫のオーナメン

ト)工芸絵画、木材工芸、金属工芸、漆工芸、工芸計画の作品などを展示しています。

「工芸科作品展開催にあたって」

工芸科2年 勝野 朱萌

今年は新型コロナウイルス感染拡大にともない学校休校、短縮授業など様々な面で私たちの作品制作にも影響を与えました。しかし、その中でも自分たちの作品を作り上げようと自分の力を出し切りました。

私は木材工芸コースで時計の彫刻と箱椅子を制作しました。木彫刻は休校期間中にアイデアを出し、新学期すぐ彫り進めるのでなく、そこから更により良い作品なるようにデザインの見直しや彫り方などを考えました。それに並行して箱椅子を図面に起こしたり、材料を製材したりなど時間を有効に使いながら自分たちの作品を作り上げることができました。

Dream Collection 展

3月13日(土)～3月28日(日)

私たち「ファッションデザインとゆかいな仲間たち」は、2018年デザイン研究部内で結成されました。ファッションデザイン未経験の私たちがでしたが、さまざまな活動の中で、仲間とアイデアを出し合ったり、多くの人にアドレスをもらったりしながら、この3年間で少しずつ成長していくことができました。

今までの集大成と、2020年9月から開始した「Dream Collection」では、後輩メンバーが増え活動がますます活発になりました。私たちの制作した衣装を見ていただき、一人でも多くの人に楽しんでもらえたら嬉しいのです。経験を活かし、仲間とのつながりやものづくりの楽しさがどんどんひろまれば良いと思います。



同窓生ギャラリー

金沢大学美術コース展

8月30日(土)～9月30日(日)

第133回

金沢大学人間社会研究域 学校教育系

教授 大村 雅章 (S54デザイン科卒)

今回、開催しました金沢大学美術コース展は、全体を3部構成として、同窓生、在学生、現職教員による美術作品を展示した「I-Acanthus Ars 2020」(アイ・アカンサス・アルス)、金沢大学附属小学校児童の作品を展示する「かしわ展」、中世ヨーロッパ絵画の技法再現をした、「中世の絵画技法で描く展」で展示をおこなっています。同窓展の「I-Acanthus Ars 2020」展は、2001年より開催され、金沢市民芸術村や金沢大学資料館などの会場を経て、今年でちょうど20年継続されてきた展覧会でもあります。金沢での活動を今回初めて、県外である高岡にて紹介できます。金沢大学の校章である「葉アザミ(アカンサス)」から名称を貰い、ラテン語でアートを意味するアルスを展覧会の名称にしています。在学生や現職教員卒業生から、現役で活躍している卒業生の作品を紹介しています。



かしわ展は、金沢大学の附属5校園(高校、中学校、小学校、幼稚園、特別支援)の校章モチーフである、「柏葉」が由来となった展覧会名称です。附属小学校にて大学生が自分の作品展示とともに、作品の紹介や解説などを行い、小学生が鑑賞するといった、相互交流の場として提供された展覧会です。今回は特別に附属小学校児童の作品を展示します。中世の絵画技法で描く展では、金沢大学美術コースが2004年より取り組んだ、日伊共同の国際貢献事業の最中、2010年に立ち上がった地元新聞社による、社会人対象の講座の作品展示を行っています。中世イタリアでは、フレスコ壁画や金箔を用いた黄金背景テンペラ画などが盛んに制作されていました。当時に近い技法や材料を使用し、模写やオリジナル作品を中心に制作しています。

最後は、この展覧会イメージに用いた大理石のレリーフ作品について説明します。作者はアンドレア・ピサノという、14世紀ゴシック期に活躍した彫刻家の作品です。当時フィレンツェの画家と彫刻家の組合が大聖堂に寄進したもので、その後にはペスト(黒死病)が大流行します。約半世紀後の15世紀にルネサンスが始まるのですが、若い芸術家たちは、この作品を凌駕することを目標にして、新しい時代を創造したといわれています。現在、世界中はコロナ渦中にありますが、美術を通じて今の時代を乗り越えることを願うものです。

第134回

第8回工芸建築科 同窓生作品展

9月6日(日)～9月26日(土)

建築科同窓会会長

大野 博和 (S47建築科卒)

今年度は、特別展示として平成の大修理が行われた勝興寺の棟梁を務めた田中健太郎氏が「木工具の発達史」と題し、大工道具・鋸(のこぎり)を展示また特別出展として上原雄史富山大学芸術文化部教授の作品が展示された。



展覧会を見学して学んだこと

建築科2年 岡田 侑斗

同窓生作品展を見学して、建築に対する考え方の幅が広がりました。例えば建築主の要望にしっかりとらわれていない建物があり、とても良いと思いましたが、

担当する建築士や建設会社が変わるとその人の個性がでるといったことが建築のおもしろさを改めて感じさせられました。また、今までに行ったことのあるお店や施設などの設計に携われた方の名前や経歴なども紹介されていました。私も印象に残るような建物の設計に携われるようになりたいと思います。

建築科2年 高多 英章

建築科を卒業された作品展を見学し、様々な建築に対しての考えかたや建て方を見ることができました。まず初めに感じたことは自分が利用した事のある施設や建物がOBの方が担当されていて、たくさ

んの方が活躍されていることに驚きました。また自分で考えた建てた建物が、たくさんの方に役になっていたら凄く誇りが持てると思いました。

株式会社サンテン・コンポレーションの小橋良樹さんの考え方は「もっと人のそばへ」です。時代の空気を捉え人々のニーズを読み、人々の集まる魅力ある店舗、空間の創造という考え方に深く共感できました。常に最新線の情報をもとにすることで、時代に流されず、その時代に合った建物をつくることができ、必要とされる建物ができると思うからです。これからは建築に対しての発想を高めていきたいです。

第135回

長岡造形大生×富大生コラボ展
「」展

12月13日(日)～1月11日(祝・月)

島 朱莉亜 (H30デザイン・絵画科卒)
展覧会のタイトルは「」展

意図として、今回の展示は富山大学、長岡造形大学の学生、ゲストでお呼びしたイラストレーターさんを含め18人の個性や世界観が溢れる作品が数多く並びます。



イラスト、建築、工芸、絵画等、様々な作品のテーマ、その想いが作品には込められています。そんな展覧会を訪れた方々が、作品を見た時に何を思い、何を見出すのか、それは人それぞれではないでしょうか。感じたいことを含めて自分だけの展覧会の名前を見つけて欲しいという思いがこのタイトルに込められています。

○主旨

18人それぞれが自分のテーマや想いを作品にしており、1つのジャンルに固定していかないのがこの展覧会の特徴です。

自分の想いをどのような形や色で表現しているのか、多岐に渡る作品の在り方をぜひ見てもらいたいと思っています。

○見所

タイトルに込められた意図と重なる所ですが、1つの展覧会に多くのジャンルに富んだ作品が溢れます。それぞれの個性と世界観、そこにある形や色は、作者の想いの現れです。この展覧会は見ただけの人それぞれの、その人だけの作品に捉えた印象や感情を受け取り、新しい発見や思いを見つけられるような気がします。ぜひ、18人の世界観を楽しんでもらいたいです。

※新型コロナウイルスの感染防止のため左記の展覧会を中止としました。

・第133回 寺勇木工展

(5月3日(日)～5月24日(日))
寺 直彦(昭和61年工芸科卒)

・第134回 大丸 晃世作品展

「木彫工芸の新たな展開」
(6月6日(土)～6月28日(日))
大丸 勉(昭和46年工芸科卒)

・第135回 あはたいと個展「ナナミ」
(6月6日(土)～6月28日(日))

猪原 惟(昭和18年デザイン科卒)

収蔵作品展 I期

「明治期の作品展」

「工芸高校の指導者たち」

5月12日(火)～6月30日(火)

初代校長の納富介次郎が全国から一流の作家を教諭として招いた。この展覧会では納富介次郎のほか木彫の村上九郎作、原型の大塚秀之丞、絵画の中島次郎、彫金の関義平ら19名の49点を紹介した。

収蔵作品展 II期

「大正期の作品展」

「活躍する卒業生たち」

12月13日(日)～1月11日(祝・月)

第6代校長の国井喜太郎(M32年髹漆科卒)、畑正吉(M31年木材彫刻科卒)、松村秀太郎(M38年木工科卒)、寺田元吉(T2年図案科卒)など10名の25点を紹介した。

第45回富山県青少年美術展、第32回富山県高等学校文化祭の入賞作品、PTA教養講座の印刻作品を展示した。

収蔵作品展 III期

「昭和平成期の作品展」

「活躍する卒業生たち」

3月13日(土)～3月28日(日)

卒業生、重要無形文化財保持者(人間国宝)金森栄一(映井智)、日本芸術院賞受賞者、大角勲、佐々木長次郎(大樹)、郷倉与作(千靱)、山崎覚太郎、藤森兼明など27名の活躍する卒業生たちの収蔵作品を展示した。金工、彫刻、漆工、洋画 等 全28作品。

特別展

藤森兼明展

5月26日(火)～7月26日(日)

洋画壇における人物画の第一人者、藤森兼明氏(昭和29年凶案絵画科卒)の作品展。はかない生の輝きと永遠の精神性という表裏一体の観念を「祈り」の中に昇華した藤森芸術を展示した。

略歴 昭和29年凶案絵画科卒業
平成20年に日本芸術院賞を受賞、日本芸術院会員
令和2年に日展副理事長から顧問、光風会理事長に就任。



畑 正吉展

7月4日(土)～7月26日(日)

本校の卒業制作である木彫刻「牛」をはじめ、ブロンズ、メダル、レリーフ作品や能の演目、能面などの作品46点を展示した。

略歴 明治34年木材彫刻科を卒業、東京美術学校で高村光雲の指導を受ける。卒業後、農商務省海外実業練習生として3年間パリへ留学。帰国後は東京美術学校や東京高等工藝学校で指導に当たり、また造幣局で文化勲章のメダルのデザインも手掛けた。



同窓生作品展

10月10日(土)～10月30日(土)



多彩な分野で活躍する卒業生、絵画や彫刻、写真、工芸など25点を展示した。その中でも竹田貞郎さん(昭和24年木材工藝科卒)の「トランペットの音色」彫刻や、川原和夫さん(昭和31年木材工藝科卒)「清流」木彫パネル、般若保さん(昭和34年電気科卒)「吹分花器」が代表される。

美術・陶芸・写真・書道部作品展

10月10日(土)～10月30日(土)

尚美展の中止を受け、美術・陶芸・写真・書道部の各々が制作活動の成果を発表した。

「美術・陶芸・写真・書道合同展」に出品して
21H 櫛部 陸真

今年は、コロナウイルス感染症の影響で、文化部合同展や尚美展が中止になりました。例年、これらの作品展では、普段は見ることのできない他の文化部の作品を鑑賞したり、私たちの作品を展示して頂いたりしていました。しかし、今年は貴重な作品展示の機会がなくなり、新しく入部してきた一年生も少しかわいそうだなと思っていました。

このような中、青井記念館美術館で作品を展示させてもらえることになりました。今年はもう展示がないのかと思っていたので、このことを知って、とても嬉しくなりました。

そして、今回の展示を機に、一層、作品創りに励みたいと感じました。美術・陶芸・写真・書道合同展を開催して下さい、本当にありがとうございました。



はぐくみ会会員募集のお知らせ

年会費(年1回納入)

- ・ 一般会員(個人) 2,000円
- ・ 特別会員(企業・団体) 10,000円

- ・ 会費納入は左記へお願いします。(直接事務室への納入も可能です。)

(直接事務室への納入も可能です。)

郵便局 口座番号 007100031367

富山県立高岡工業高等学校

青井記念館美術館はぐくみ会

詳細は青井記念館美術館の事務担当者までお問い合わせください。

連絡先 高岡工業高校 TEL (0766)211-1630(代)

編集発行

富山県立高岡工業高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 〒933-8518 高岡市中川一丁目二〇

TEL (0766)211-1630(内線611)

FAX (0766)211-1631